

福原紀彦総長・学長就任 新教学執行部が発足

2011年10月29日(土)開催の理事会は、基本規定(寄附行為)第5条により、次期総長に福原紀彦法学部教授・法務研究科教授を選任しました。総長は、総長選考委員会が選考した候補者について、理事会が選任することになっています。

また、去る10月2日(日)、多摩キャンパス9号館において学長選挙が行われ、

福原紀彦法学部教授・法務研究科教授が当選人となりました。これを受けて、2011年10月29日(土)開催の理事会は、同日開催の評議員会の議を経て、同教授を次期学長に選任しました。

総長及び学長の任期は、いずれも2011年11月6日から2014年11月5日までの3年間です。



総長・学長 ふくはら ただひこ
福原紀彦

1954年滋賀県生まれ。1977年中央大学法学部卒、1984年同大学院法学研究科博士後期課程満期退学、1995年中央大学法学部教授、2004年同法科大学院教授、2007年同法務研究科長、2008年学校法人中央大学理事、2011年より現職。その他、文部科学省大学設置・学校法人審議会委員、大学基準協会理事、私立大学連盟常務理事等。専攻は、民法(商法・IT法)。

■ 学部長



法学部
はしもと もとひろ
橋本基弘

専門分野
公法学



経済学部
せきの みつお
関野満夫

専門分野
財政学



商学部
かわい ひさし
河合久

専門分野
会計学・経営学・
情報システム学



理工学部
いしい よういち
石井洋一

専門分野
有機金属化合物
配位化合物



文学部
かさい りょうじ
河西良治

専門分野
英語学
言語哲学



総合政策学部
たんざわ やすはる
丹沢安治

専門分野
経営学

■ 研究科長



国際会計研究科
とみづか よしかず
冨塚嘉一

専門分野
会計学



法務研究科
しいはら たかゆき
椎橋隆幸

専門分野
刑事法学



戦略経営研究科
やまもと ひでお
山本秀男

専門分野
情報システム学・教育工学・社会システム工学・安全システム

人間総合理工学科を新設 —理工学部

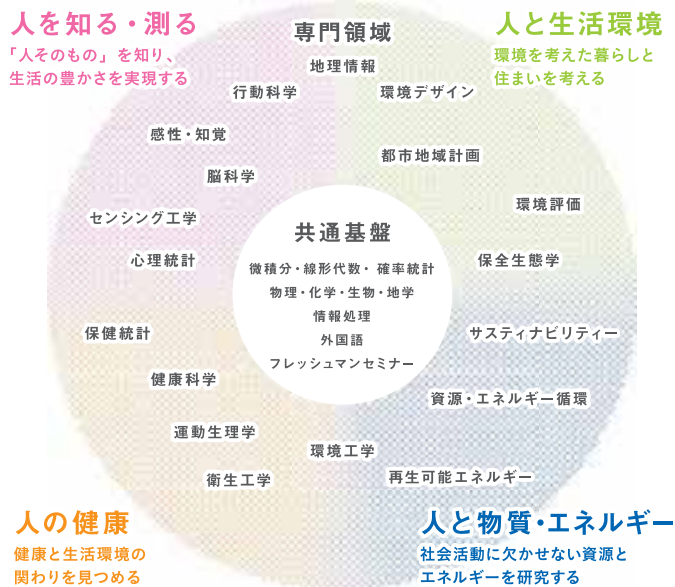
「人間」をキーワードに、2013年4月からスタート

2013年4月、理工学部人間総合理工学科を新設します。理工学部では、これまで学問領域ごとに学科を設置してきた経緯があり、2008年の生命科学科開設により9学科体制となり、理工学分野のほぼ全域を幅広くカバーしています。一方で、現代社会においては少子高齢化、地球温暖化などの新しい課題が顕在化し、科学技術の在り方が様々な面で問われています。こうした課題はあらゆる要因が複雑にからんでおり、解決していくには一つの専門領域からのアプローチでは困難で、専門性をもちつつ各専門領域との橋渡しのできる新しい

理工系人材が求められています。理工学部10番目の学科となる人間総合理工学科では、この新しい理工系人材の輩出を目指していきます。

本学科では「人間」をキーワードとし、「人間の心と体」、「人間と自然の共生」を分野横断的に扱い、社会が抱えている複雑な問題の解決に貢献する新しい理工学的思考と技法を教授し、豊かな人間生活の実現に寄与する新時代の理工学の創出を目指します。そのために、理工学の基礎を幅広く築き、その上で専門性を身につけていくカリキュラムを準備しています。実際には「人を知る・測る」「人の健康」「人と生活環境」「人と物質・エネルギー」の4分野を有機的に結びつけ、例えば、「人の健康」について取り組む場合、心理統計学や行動科学、地理情報学など相関関係がある科目をあわせて履修することで、幅広い視野を養いながら専門性を高めていくことができます。

理工学系のバックグラウンドと柔軟な論理的思考力をもつ人材のニーズは高まっています。卒業後の進路は、環境やエネルギー、または人の健康と食に関わる民間企業の技術者、環境デザイナー、環境系コンサルタント、教員、官公庁職員など、あらゆるフィールドでの活躍が期待できます。



読売新聞×法学部の連続市民講座を開講 —法学部

『リスク社会に生きる 法、政治、そして未来』をテーマに、全10回

2012年度、法学部では読売新聞立川支局との共催で、1年にわたり連続市民講座を開講しています。既に第1回から第3回が終了していますが、2013年3月までほぼ月に1回、全10回の開講を予定しています。

『リスク社会に生きる 法、政治、そし

て未来』という年間テーマの下に、10名の法学部専任教員がそれぞれの研究分野にまつわる「リスク」について講義します。各講座は1回完結ですので、興味のある回のみのご参加も可能です。各回とも土曜日午後の実施ですので、是非、多摩キャンパスまで足をお運びください。

なお、多摩キャンパスから遠方にお住まいの学員の皆さまにも視聴いただけるよう、講座の様相を番組化し、後日、iTunes UやYouTube等の動画サイトで教養講座『学びの回廊』として配信します。

『学びの回廊』は、2011年度よりスタートし、昨年実施のオープンキャンパス法学部模擬授業の映像を中心に、iTunes UやYouTubeにて配信しています。こちらも是非、ご覧ください。

※大学公式Webサイトにバナーを設置しています。

■ 開講にあたってのご挨拶

不確実な未来をリスクと呼ぶのなら、私たちはリスクとともに生きていることとなります。3.11の大震災は、その当たり前前の事実を私たちの心に刻み込みました。この連続講座では、取引上のリスク、歳を取ることによって生じるリスク、国や地方公共団体というリスク管理制度等、中央大学

法学部のスタッフが様々な角度からリスクの問題に切り込みます。多摩丘陵にある中央大学キャンパスでは、四季折々の自然の表情を堪能することができます。法学というと堅苦しいイメージがありますが、「今ここにあるリスク」を一緒に考えてみませんか。

中央大学法学部長 橋本 基弘

開講講座		(終了のものを含む)
■ 第1回	4/28 (終了) リスク社会と向き合うー過去・現在・未来ー	遠藤 研一郎 教授
■ 第2回	5/26 (終了) 雇用社会に潜むリスクー非正規雇用を中心にー	川田 知子 准教授
■ 第3回	6/23 (終了) 犯罪の被害者になるリスク そのコントロール手法	曲田 統 教授
■ 第4回	7/28 広告表示と消費者リスク	西村 暢史 准教授
■ 第5回	9/29 リスク補償の政治を越えてー水俣病・ダイオキシン・原子力ー	中澤 秀雄 教授
■ 第6回	10/20 リスク社会とデモクラシーー理性・感情をめぐる政治ー	中島 康予 教授
■ 第7回	11/17 高齢社会のリスクを避ける成年後見制度	新井 誠 教授
■ 第8回	12/15 民事訴訟の当事者となることのリスク	秦 公正 准教授
■ 第9回	2013/1/12 アジアにおける紛争リスクと回避の方途ー日中関係をめぐってー	都留 康子 教授
■ 第10回	2013/3/2 選挙制度とリスク	橋本 基弘 教授(法学部長)

時間・会場 (各回共通) : 13:20 ~ 14:50 多摩キャンパス 3号館 3115号教室
 ※ 開催予定や会場が変更になる場合は、中央大学 Web サイト上でお知らせします。

国際寮のルームシェア方式に注目

多摩キャンパス近隣2カ所、2011年3月、2012年4月に相次いでオープン

現在、本学では日野市多摩平と多摩市一ノ宮の2カ所に国際寮を開設しています。いずれも建物一棟の全室を借り上げて本学の学生だけが居住するもので、外国人留学生と日本人学生が混住しています。

日野市の寮は外国人留学生と日本人学生がルームシェア方式で居住、多摩市の寮は交流スペースのあるワンルームマンションタイプで、大学院に在籍する外国人留学生が多く住んでいると

いう特色があります。

特に日野市の国際寮は、その特色から各種メディアの取材が多く、新聞・

雑誌・テレビなどで多数紹介されています。



ルソー生誕 300 周年記念東京国際シンポジウム —文学研究科

9月14日から16日まで、中央大学駿河台記念館、日仏会館で開催



ジャン=ジャック・ルソーの生誕300年を記念して中央大学では、日仏会館（公益財団法人）と日仏会館フランス事務所（フランス外務省の海外研究所）との共催で、在日スイス大使館の後援を得て、国際シンポジウムを開催します。

ルソーは、文明批判の思想家、『新エロイズ』という書簡体小説や自伝『告白』や劇を書いた文学者、オペラ『村の占い師』や歌曲の作曲家で音楽理論家、『エミール』を書いた教育学者、『社会契約論』の政治哲学者、さらには植物学者など様々な顔を持っています。フランス大革命を通してヨーロッパの国民国家の基礎を築いた近代共和主義と民主主義の父と称され、他方文学でもロマン主義の先駆け、ヨーロッパ自伝文学の白眉と言われるなど、多方面に渡って大きな足跡を残しました。日本でも

一般の方の聴講も可能。
お問い合わせ:

- 中大仏文研究室
042-674-3746
- 日仏会館
03-5424-1141
- 同フランス事務所
03-5421-7641

『社会契約論』を漢訳した中江兆民の『民約訳解』を通して明治10年代に民権運動に大きな影響を及ぼすなど早くから知られ、研究も非常に盛んです。

「ルソーと近代:ルソーの回帰、ルソーへの回帰」を統一テーマに掲げる今回のシンポジウムには、①文学研究におけるルソー、②政治思想研究におけるルソー、③日本におけるルソー受容、の三つの軸が設定されています。外国からはパリ第4大学のジャック・ベルシュトルド教授（スイス人、現フランス18世紀学会会長）やパリ第1大学のピエール・セルナ教授（フランス革命研究所長）をはじめ9名を招聘し、日本からも17名の研究者が発表します。9月14日は中大駿河台記念館、15・16日は日仏会館ホールです。成果は学術書として出版の予定です。

中央大学インターナショナル・ウィーク

フランス、イギリスにつづき、
6月に第3回(テーマ:ドイツ)を実施

6月16日から23日まで、インターナショナル・ウィーク第3回(テーマ:ドイツ)が、多摩キャンパス及び後楽園キャンパスで開催されました。第1回テーマ:フランス(2011年6月)、第2回テーマ:イギリス(同10月)に続く今回は、特別行事である駐日ドイツ大使講演会(7月10日火曜日13:20~14:50多摩キャンパス8304号室)のほか、ウィーク期間中には、多摩キャンパスでは、駐日ドイツ公使ら3名による講演会(6月20日水曜日)を中心に、「エネルギーの未来を考える」「ドイツの法制度から日本の法制度を考える」「グローバル化とグローバリゼーションとグローバル・カルチャー」「世界に冠たるドイツ音楽とその背景」「中央大学

とドイツの古くて新しい関係」「ドイツ・フェア(生協協賛イベント)」という6つのテーマで映画、講演、討論会、音楽会、展示、販売が行われ、後楽園キャンパスでは、檜山研究開発機構教授のフンボルト賞受賞記念講演会、森鷗外をテーマとした講演会(文京区と共催)など3つの講演会、展示会並びに販売(生協協賛イベント)が行われました。

第1、2回のインターナショナル・ウィークで寄せられた感想では「大使講演会に出席して、大学生になったと実感した」「1年生男子)など、多くの学生が新しい世界



講演いただいた駐日大使の方々——(写真左から)フィリップ・フォール駐日フランス大使、デイビッド・ウォレン駐日イギリス大使、フォルカー・シュタンツェル駐日ドイツ大使

に触れた喜びを素直に表現してくれています。今回は、これまでより格段に多彩で多方面にわたる内容を持つイベント・展示となり、各界トップのドイツ人だけでも8名の方々をお招きする運びとなりました。このイベントは、学生や私達の目を外に向けさせるだけでなく、中央大学という学びの場、私達の文化や社会、そして私達自身の生き方について考えるきっかけを与えるものとなっています。中央大学は今後も、学生諸君のより豊かな人生につながる学びと経験の場を提供して参ります。